

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 S様 70代 男性 介護度3

老人性アルツハイマー型認知症で近隣精神科病院に入院し、在宅復帰困難につき当施設へ入所となる。中耳炎の影響で子供の頃になり両耳聞こえず、補聴器使用している。

内 容

今年7月に他ユニットから私たちのユニットに移ってきたS様は無表情で、スタッフから声を掛けてもあまり反応を示してくれることはありませんでした。また介助の際、スタッフが近くに寄ると警戒し身構えるような仕草をしたり、スタッフに殴り掛かるような仕草をする等、警戒心の強い状態でした。

そのような状態のS様に対して、研修で学んだユマニチュードの内容がS様の状態改善に繋がるのではないかと考え、ユニットスタッフにユマニチュードのケア方法を改めて説明し実行していきました。

まずユマニチュードにおける「見る」「話しかける」「触れる」から意識していくようにスタッフに呼びかけました。本人に正面から笑顔で話かけ、触れる事で警戒心を取り除いて安心感を持ってもらえるようにしました。そうして2週間程してからS様に変化が出てきました。

スタッフが近づいて話しかけても警戒するような様子が無くなり、スタッフからの声掛けに対して何かを応えるような声を出すようになってきました。また行動意欲も出てきて、全介助で行っていた食事が食器を持てるように介助するだけで、後は自分で最後まで自分で食事が取れるくらいまで回復してきました。また今までは立位の際自分で立とうとせず2人介助で車椅子に移乗していましたが、立つ時足に力を入れてくれるようになり一人介助でも移乗が出来るようになってきて起きている時間がずっと多くなりユマニチュードの「立つ」が出来る機会が増えました。

そんな変化が出てきた頃、S様をベットから起こして「大丈夫ですか?」と声を掛けた時にS様が笑顔で「ありがとうございます」と答えてくれました。その時Sさまがユニットに来てから3週間で初めてしっかり声掛けを返してもらえた瞬間だったのでとても感動しました、またS氏も周りの様子を良く観察するようになり人の様子を見たり、会話を聞いたりすることで笑ったり、言葉はまだ小さくとも見たことに対して言葉を話していたりと、徐々に明るくなっていきました。それによってご家族からも「以前は無表情で、話しかけても全然答えてくれなかったけど、最近表情が良いし、話せる事が多くなってきて、皆さんにはとても感謝しています」とお声をいただき、面会時にはS様もご家族も楽しそうに散歩されている姿を見て今回の取り組みが良い結果に繋がったと感じました。今後もS様の出来る事の幅を増やしていくとともに、ユマニチュードで学んだことを施設全体に浸透して行けるよう取り組みを続けていこうと思います。